

あけましておめでとうございます！

年が明けました。3年生はいよいよこれからですね。本番での実力発揮を期待しています。

大学入試共通テストについて改めて考えてみる

さて、2025年1月18日(土)、19日(日)に共通テストが実施されます。3年生は、もはや人事を尽くして受験するだけですが、1・2年生にとっては、どういものかまだイメージしにくいかもしれません。また、先輩や保護者の方が受験したセンター試験・共通テストと、今の共通テストは少し位置付けが変わっているところもあります。ここでは今の共通テストがどんなものかを、どちらかという3年生以外に向けてまとめてみたいと思います。

大学入試共通テストは、大学入試センターが実施する全国一斉の試験です。この試験自体で、どこかの大学の合否が決まるわけではなく、あくまでも「共通テストの点数」が大学入試センターに登録されるだけです。

国立大学の一般入試では、この「共通テストの点数」と、「個別試験(いわゆる2次試験)」の合計点で合否が決まるものがほとんどです。また、国立大学の総合型入試や、推薦入試では共通テストの点数を利用するものも多く、**国立大学を志望する人は、共通テストの受験は必須である**と言えるでしょう。

一方、**私立大学の一般入試の多くは、共通テストとは別の、大学独自の試験(いわゆる一般試験)が王道**です。ただし、「共通テストの点数」により合否を判定する**共通テスト利用型**の入試や、「共通テストのある科目の点数」+「私立大学独自の試験の点数」で合否を決める**共通テスト併用型**の入試が多く実施され、国立大学を受験しない(私立大専願)としても、共通テストを受験しておいた方がよい、ということになります。

ここまでが一般的な説明になりますが、私立大学の中には、共通テストの扱いが特殊な大学があります。

まず、**共通テストを一切利用しない大学として、慶應義塾大学**があります。極論を言えば、共通テストで満点をとったとしても、慶應大学の入試には全く関係ない、ということです。やはり慶應大学は、孤高の独自路線ですね、

一方で、**共通テストを利用しなければ受験できない私立大学の学部**が少しずつ増えているようです。特に、**早稲田大学**は半分以上の学部が共通テストを受験していないと受けられない学部になっています。とりわけ**英語(リーディング・リスニング合わせて200点)**の利用が多いです。この慶應と早稲田の違いは、同じ九州出身でありながら、公職に一切就かなかつた**福沢諭吉**と、内閣総理大臣まで務めた**大隈重信**の違いのようでとても興味深いですね。

他にも、**上智大学は共通テストの英語**か、もしくは**TEAP**という英語の試験(今回は説明を省略)を受験していないと、受験できません。**立教大学**も、文学部以外は英語の試験を実施せず、**共通テストの英語**(もしくは資格試験)の成績を利用します。また、**明治大学経営学部**も、2026年度入試(今の2年生から)では、**英語・国語以外の科目に共通テストが必須**になるという発表をしています。詳しくは、各大学のHPで確認してください。

これ、わかりますか？ 例えば、**明治大学経営学部**と、**立教大学経営学部**を併願する場合(ありそうですよね?)、「**英語**」については、明治大学は大学独自試験、立教大学は共通テストを利用し、**選択科目**については、明治大学は共通テストを利用、立教大学は大学独自試験になるということです。何なんでしょうね？

なぜ、こういうことが起こるのでしょうか？ ここからが深読みですが、大学によっては、入試問題を作成するのが大変になり、共通テストをそのまま利用した方がいい、と判断したり、あるいは英語は共通テストを利用した方が、偏りがなくて公平である、と考えているのではないかと思います。本当のところはよくわかりませんが。

というわけで、ここまでの論点を改めて整理してみます。

共通テストは、国立大学を志望するなら必須です。私立大学でも、入試に利用できる大学がほとんどですし、近年は必須になったところもあります。したがって、**私立大学を目指す人にとっても、共通テストを受験して高得点をとる**、ということが一つの目標になるということです。なお、共通テストを含めた各大学の入試科目の設定については、**必ず各大学の募集要項・入試要項を熟読して、間違いのないように**しましょう。

看護系大学について考えてみる

本校では、それほど多くはないですが、毎年必ず一定数看護系の志望者がいます。看護師とはどんな仕事かなどについてはここで紹介する必要はないと思います。ここでは本校の看護系志望者にとって多少は有用かと思われる情報を提供しようと思います。あくまでも私見レベルですので、参考程度に留めてください。

まず、看護師の資格そのものは、4年制大学、3年制の専門学校に違いはありません。一般的に、大学の方が、幅広く、専門性の高い内容を学ぶことができるので、現場におけるリーダーであったり、高度な技術をもった看護師として活躍が期待されると言えます。また、看護師の資格取得後に保健師・助産師を取得したり、大学院でさらに高度な内容を学ぶといった道筋があるのも4年制大学の魅力です。

そんな看護系の大学ですが、本校の看護系大学志望者がまず想定するのは以下の3大学だと思います。

- ・**浜松医科大学 医学部看護学科**(以下浜医)
- ・**静岡県立大学 看護学部看護学科**(以下県大)
- ・**聖隷クリストファー大学 看護学部**(以下聖隷)

実際のところ、それぞれオープンキャンパス等に参加して、自分の目で見て、聞いて判断するのがよいのですが、その土台となる考え方を紹介します。これも私見ですので、鵜呑みにはせず、参考にして下さい。

まず、**浜医**と**県大**ですが、それぞれ設置者が**国**と**県**であるという違いは、実は大きいです。というのも、国立(の医科)大学は、国の医療のため、研究のために設立されているのに対し、**県立大学は、県の医療の充実を目的として設立されています**。したがって、**浜医の看護学科**は附属病院・医学部医学科との連携に重きがおかれ、**医学研究や高度医療分野**に強いと言えます。一方で、**県大**は附属病院こそありませんが、県内の医療機関や福祉施設との連携が強く、**地域医療や在宅看護といった地域密着の看護**に強いと言えます。

このような違いは(どこまで当てはまるかはわかりませんが)、**入試科目設定**からもうかがうことができます。国公立大学の2次試験の内容は、どのような学生に来て欲しいかというメッセージでもあります。**浜医**の2次試験は**英語200点**が課されており、将来的には大学で英語の論文を読んだり書いたりすることが想定されているように思います。一方、**県大**の2次試験にも**口頭試問として英語**が組み込まれていますが、こちらはコミュニケーションツールとしての英語が使えるかどうかといった内容が問われているようです。

模試のデータ・ランキング表だけを見ると、浜医も県大も同じようなレベルの大学に見えますが、設置者の違いやアドミッションポリシーなどに目を向けると、おのずと違いが見えてくると思います。入学後のことも考えて大学選びをしたいものですね。

一方、地元私立看護系大学の筆頭、**聖隷**ですが、やはりこの強みは系列の病院を多数持っているため、実習先には困らないところだと思います。当然、私立大学ですので、学費の問題はありますが、**奨学生入試**や、系列病院での勤務等により返済不要になる奨学金等、うまく利用すれば経済的な負担を和らげることはできそうです。また、教育学部を持っている強みもあり、養護教諭の資格も頑張れば取ることも可能です。

この3大学以外の看護系の大学としては、**常葉大学健康科学部看護学科**も選択肢になるでしょう。視野を広げるために、**国立看護大学校・防衛医科大学校看護学科**も調べてみてください。これらの学校は併願しやすく、国公立大並みの授業料、もしくは給料がもらえる(!)ところです。他にも、例えば**日本赤十字豊田看護大学**には赤十字病院に勤務することを条件に奨学金が出る制度があります。同様な制度がある大学は多いです。

また、個人的には静岡県以外の公立看護系大学もおすすめてです。というのも、看護師のニーズは全国にあり、どの都道府県にも必ず公立の看護系大学があります。そして、そこで行われている看護教育は、どこであれ必ずその都道府県のトップレベルです(静岡県立だろうが、岩手県立だろうが、高知県立だろうが)。もちろん、授業料もリーズナブルですし、そもそも冒頭に書いたように、看護師の資格はどこでとってても同じですので、**就職に有利不利はありません**。もし、合否判定で迷うようなことがあり、授業料・生活費を抑えたいということがあれば、日本全国の公立看護系大学も選択肢の中に入れてみることをおすすめします。